

(25) 検討結果説明会の結果報告

**印西地区環境整備事業組合次期中間処理施設整備事業
施設整備基本計画検討委員会・地域振興策検討委員会
検討結果説明会 会議録（概要版）**

議 題	検討結果説明会
日 時	平成 28 年 3 月 6 日（土） 13:00～15:00
場 所	印西地区環境整備事業組合 3 階大会議室
出席者	学識委員（施設整備）：2 名 （地域振興）：2 名 印西地区環境整備事業組合：8 名 関係市町：3 名 コンサル：2 名
周辺住民	17 名
配付資料	・検討結果説明会資料：席次表、次第、説明資料（A4、46 p） ※閲覧資料、検討結果説明会に関する意見書：会議室後方に設置

主 た る 事 項

1. 開会
 - ・写真撮影、録音を行うことを通知する。
- 2-1. 委員長挨拶（施設整備基本計画検討委員会委員長）

現施設は稼動 30 年を経過しているため、新たな施設を建設する時期に差し掛かってきた。ごみ処理施設は迷惑施設との見方がある中で、このニュータウンで共存共栄し、安心安全な稼動をしてきた。しかし、同一敷地での建替えは理解が得られない状況の中で、全国でも稀に見る公募方式を採用し、迷惑施設との認識をプラス価値に変えとの吉田区の強い思いのなかで検討を進めてきた。今後もこのような方式が広まることを期待している。忌憚の無い意見を頂き、最後となる第 10 回委員会に反映したい。
- 2-2. 委員長挨拶（地域振興策検討委員会委員長）

市民目線、自然保護の観点から、吉田区の意見を専門的知識の豊富な委員で検討してきた。色々なアイデアが出ており、これらのアイデアを今後さらに検討し、上手に組み合わせれば、地域全体の良さを首都圏の方々にアピールする、よりよい案になるものと考えている。

吉田地区の方は、これを人任せにせず、自らの手で経営することも考えており、地域ぐるみの町起こしとなり、白井市、栄町も含めた地域活性化に繋がるものと考えている。皆様の意見を頂き、さらに検討に反映したい。
3. 出席委員及び事務局職員紹介（組合より紹介）
4. 検討結果説明（組合より説明）
5. 質疑応答
 - ・説明会に管理者である印西市市長は出席しないのか？
→検討委員会主催の説明会のため、出席はない。
 - ・白井市、栄町が単独でごみ処理をするという考えはなかったのか？
→広域による効率的処理の枠の中で考え組合を設置し、処理を行っている。
 - ・計画市道のルートは、新川を渡り八千代市に繋がっている。白井地区にも利便性があるルートは考えなかったのか？
→中間処理施設の運営を考慮したアクセスルートを検討したものである。地域振興策の利便を考慮したルートは、今後、地元と調整の上、決めていく。
 - ・事業費の検討はなされたのか？
→地元との協議の中で決定することが多々あることから、今後検討を進めた上で、事業費を提示する。
 - ・事業費の検討において、既存施設の用地での建替えの方が安くなる可能性は無いのか？
→建替えは現在地ありきではなく、用地検討委員会を経て現在の検討に至っていることをご理解いただきたい。
 - ・ストーカ式を選定した理由は何か、以前は灰溶融が含まれていたが止めた理由は何か。

- 最終処分場を保有しており、その有効利用の観点からストーカ式を選定している。
- 基本方針に地域住民の理解と協力とあるが、地域の範囲はどこまでか。煙突の計画高での排ガスの影響が最大となる地点は吉田区より離れた周辺地域となるが予測されるが周辺地域からの意見等の対応は考えているか。
 - 建設候補地が属する町内会である吉田区及び周辺町内会である松崎区（5つの町内会で組織）を対象と考えている。排ガスの影響については、環境アセスメントを実施による結果を縦覧し意見を求める。
 - 最大着地濃度地点は施設から2km程度で、環境基準の1/100未満の最大着地濃度ということを確認している。計算結果も公表しているが、安全・安心面についても答申の中で伝わるよう配慮させていただきたい。
 - 地域振興策は初期投資のみではなく、運営費の負担を考慮する必要がある。運営費が赤字になった場合は誰が負担するのか。
 - どこで、何を、どのような規模でやるかといった具体的なものは決めていない。具体的検討は来年度以降に行う予定であり、その際に、リスク分担も協議して決めていく。現時点では赤字の負担を否定するものでもなく、事業内容によるものと思う。
 - 現在の温水センターでも構成市町の負担がある。それを踏襲するのか。
 - 吉田区では採算性のある、次世代の負担とならない自立した施設を基本に検討を進めている。
 - 集客の心配はないか。
 - 吉田地区は大規模住宅に囲まれており、より多くの集客が図られるよう検討していく。
 - ごみ処理=迷惑施設との見方の中で、吉田区で地域おこしとして、受入れることには敬意を表する。地元への感謝が基本と理解している。地域振興策に対しては、住民任せではなく、組合がサポートする必要がある。当初の間の赤字は負担する等、印西市もサポートするべきであり、それを、答申に明記して欲しい。
 - 重点施設については組合の主導で決定し、責任をもって展開してほしい。
 - 組合も事業主体として、十分な対応をするとともに、地元の方と一緒に検討していくスタンスである。パブコメでも地元住民に配慮すべきとの意見をいただいております、今月開催する委員会において審議させていただく。
 - 今後の審議により、答申への記載を検討する。
 - 敷地用地の面積は、前市長の時の計画では広い土地だったが、今回の敷地面積はどの程度か。
 - 約2.6ha。
 - 計画道路の幅員、用地買収部はどこか。
 - 計画幹線松崎吉田線からの分岐として、現道活用を基本とし9mの幅員とする計画であるが、ルートについては周辺住民との協議による。
 - 地域将来像の賑わい、雇用・就労は本当に確保できるのか。集客のない道の駅もみている。賑わいは、周辺の住民が行きたいと思う施設でないといけない。集客ができるのか心配である。今後検討することなので回答は求めない。
 - 農業振興策は非常によいと思う。殆どの農家は跡継ぎがない状況で、田んぼは組合の機械で耕作してもらえが、畑はどうにもならない。今後の野菜作りは、工場のようなかたちになっていくと思う。印西市内のゴルフ場の下の方では、従業員が20~30人おり、近隣の農家方が働いている。東京に出たお嬢さんがUターンしてきて、近隣の方を巻き込んで大規模にやっていて、近くの販売店に卸している。このように、事業が広がっていく可能性がある。

6. 今後の予定について（組合より説明）

7. 閉会